

必要感をもって補修の技術を習得する家庭科指導の工夫 - 「ボタン付けとまつり縫い」のスパイラル学習を取り入れて -

家庭科班 對比地 晴美 (中学校教諭)

生徒の実態

- ・習得しはずの玉結び・玉止めの技術が家庭での実践につながっていない
- ・ボタン付けの定着率が低く、技能に困難さが見られる

必要感とは

家庭の中で補修の技術を活用する場面を授業に組み入れて、技術を習得し補修の技術の必要性を生徒に意識付けしたい

平成23年度群馬県学校教育の指針(家庭・技術・家庭)

- ・実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を工夫する

ぐんま子どもの基礎基本の習得状況調査結果速報から

- ・ボタン付けの糸足を作るなどの技能や表にひびかない適切なまつり縫いによる補修の技術には達していない

研究の内容

実際の家庭生活の中で補修の技術を活用する場面を想定し、「ボタン付け」、「制服のズボンの裾のまつり縫い」、さらに「生活の課題と実践」の学習内容と関連させまつり縫い等の補修の技術を製作品にまで活用することを考えた。そのために繰り返し補修の技術を授業に取り入れたスパイラル学習を行うことを通して、必要感をもって補修の技術を習得できるようにした

つかむ

小中の体系化と既習事項の定着

Yシャツとブラウスのボタン付けとまつり縫いの基礎縫い

まつり縫い1回




平面の布のまつり縫いの基礎縫いと制服のYシャツやブラウスのボタン付けの実習を通して、糸がたるんでいない、糸足ができているなどの補修の技術を習得できるようにする

深める

補修の技術の習得・活用

円筒形ズボンの裾練習布でのまつり縫い

まつり縫い2回



制服の布を使った円筒形の裾の練習布で、実習することを通して、まつり縫いが表にひびかないように縫えるなど美しいまつり縫いを目指して、補修の技術を習得できるようにする

広げる

目的に応じた方法を選び補修の技術の習得

生活の課題と実践

まつり縫いを生かしたマスクの製作

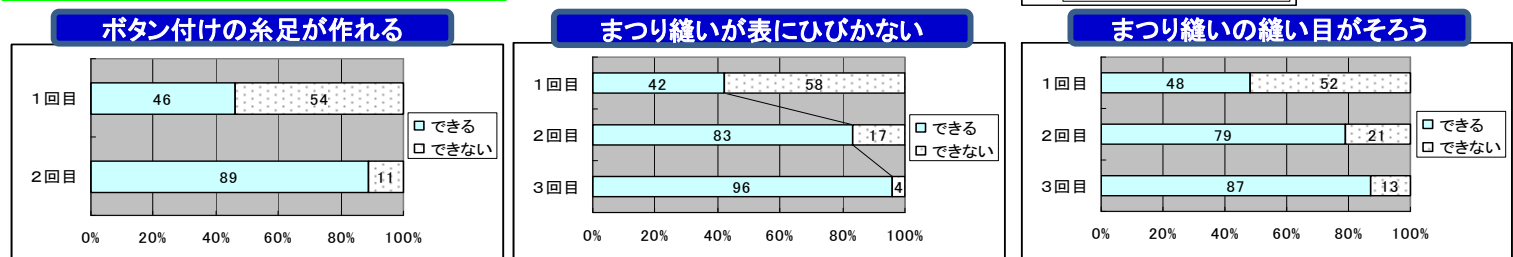
インデックスワークシート

まつり縫い3回



家庭での実践意欲と必要感が高まっている





成果

- ・実際の生活の場面と結びつけやすくするために、円筒形のズボンの裾の練習布を用いることで、技術を習得することへの必要感が高められ、美しいまつり縫いの技術の習得につながった。
- ・小学校との体系化を図り、ボタン付けの糸足を作る技術の定着を図ることができた。
- ・まつり縫い実習を3回スパイラルに繰り返したことで、必要感が高められるとともに、家庭での実践意欲も高められた。

課題

- ・練習布が縫いにくい素材であったため、生徒に達成感をもたせるためには、扱いやすい素材や厚みの布を必要がある。
- ・3段階を平易なものから段階的に学習のねらいを高めながら、繰り返し学習できるように組み換える必要がある。
- ・生活の課題と実践ではマスク製作をしたが、マスクに限らず、さらにまつり縫いを活用した製作品を工夫する必要がある。